

『野の丘』 寸評

- ・ Ob.とピアノでとてもさわやか
- ・ Ob.に適切な楽想 音域もピッタリ
- ・ m.10からの活気づいたメロディも伸びやか
- ・ ピアノ伴奏にも3種類の工夫がみてとれる
- ・ 楽想がとぎれなく移り変わって走馬灯をみているよう

完成度をさらに上げるために

- ・ m.5からあきらかに $\frac{3}{4}$ なのに $\frac{4}{4}$ で記譜を貫き通したのはなぜ？
- ・ 16小節にこだわらず拍子記号は正確に
 いたいことを過不足なく譜面にしよう
- ・ m.5アウフタクトからの拍子変化が唐突で混乱する
- ・ m.4から伴奏で $\frac{3}{4}$ を表現するとスムーズ
- ・ m.5の伴奏も八分音符のアルペジオを取入れたらどうだろう
 ←m.10からの伴奏と対比がはっきりする
- ・ m.14 b.3からピアノもメロディをとってOb.と対話したらどうだろう
- ・ m.8-9 Ob.の同音反復にスタッカートを振ったらどうだろう
- ・ スラーやアーティキュレーションが振ってあると
 演奏の目鼻立ちがはっきりします

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

よくできました。

持麿勉